

2026 年 8 月 1 日

関係各位

公益財団法人日本体操協会
体操競技男子強化本部
審判委員会体操競技男子審判本部

体操競技男子 FIG ニュースレター (NO.4) 発行に伴う国内適用について

WORLD GYMNASTICS [旧 FIG] (国際体操連盟) は、ニュースレター (NO.4) 【2026 年 7 月】を公式ホームページ上にて掲載し、採点規則の明確化や新しい情報を公開しました。

強化本部および審判本部では、ニュースレター (NO.4) の内容を精査、翻訳したものを公開しました。なお、ここに掲載のある情報に関しては、2026 年 12 月 1 日より国内にて適用することといたします (新しい技の認定については即時有効とします)。

次頁以降に掲載されている内容を理解し、強化および審判活動にお役立て頂ければ幸いです。

原文

【WORLD GYMNASTICS ニュースレター (NO.4)】公式サイト

http://www.fig-docs.com/website/newsletters/MAG/2026/MAG_NL_4_en.pdf



NEWSLETTER – N° 04 – July 2026

体操競技男子 WORLD GYMNASTICS ニュースレター No.4 (2026 年 7 月) 【日本語翻訳版】

概要

種目別ワールドカップシリーズは、クロアチア・オシエクでの大会をもって終了し、シリーズ総合優勝者が決定した。本シリーズは参加者数・競技レベルの両面で成長を続けており、世界選手権の出場権がかかることでその重要性はさらに高まり、シーズンを通して実施水準を高めている。

男子技術委員会は、すべての種目別ワールドカップおよびワールドチャレンジカップの主催者に対し、国際体操界の継続的な発展と成功への多大な尽力と貢献に、心より感謝する。

《中略》

本ニュースレターに記載された MTC の決定事項は、2026 年 9 月 1 日から有効となる。ただし、新しい技の認定については即時有効となる。次回のニュースレターは、ロッテルダム世界選手権およびダカール・ユースオリンピックの終了後、本年末に発行する予定である。

1. 2025-2028 年版採点規則の明確化

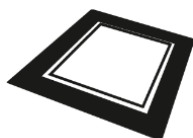
ライン減点

ゆかの終末技または跳馬の着地において、両足がはなれた状態で片足がラインの外に着地し、その後に最終的な立ち姿勢をとるためかかとをそろえる過程で両足ともラインの外に出た場合、減点は 0.30 とする。



ライン減点を伴う着地加点

ゆかおよび跳馬においては、ライン減点がある場合でも着地加点を得ることができる。



Floor Exercise ゆか

異なるコーナーの移動

異なるコーナー移動の導入は、ゆかの演技における調和のとれた流れを改善するという目的を達成した。一方で、とび出し方や着地の足の位置が正しくないために、認定上の問題が生じる例が見られた。そこで、混乱を減らすため、コーナー移動について以下の変更を行う。



- ・すべての鹿ジャンプは、ひねりを伴うか否かにかかわらず、同一のものとみなす。
- ・すべてのシソヌ(膝をのばした鹿ジャンプ)は、ひねりを伴うか否かにかかわらず、同一のものとみなす。
- ・すべての開脚ジャンプ(前後開脚・左右開脚)は、ひねりを伴うか否かにかかわらず、同一のものとみなす。

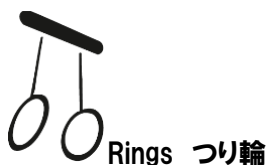
すべてのコーナー移動は芸術性を示さなければならない。各コーナー移動における具体的な基準と減点、および推奨されるシンボルマークについては、以下の表を参照すること。

ジャンプ／リープの要求を満たすためのとび1回ひねり、とび 3/2 ひねり、とび2回ひねりは、両足踏み切りで実施しなければならない。また、支持姿勢へのジャンプは、両手によるコントロールされた着手を示さなければならない、そうでない場合は 0.10、0.30、0.50 の減点、または不認定となる。



付録:コーナ移動の具体的基準

移動	シンボルマーク	要求	減点
単純なステップ	S	ひねりを伴っても伴わなくてもよいが、脚を水平より高く上げなければならない	脚が水平より低い -0.10
はさみとび	Sc	両脚とも水平より高く振り上げる	脚が水平より低い -0.10
側転のバリエーション	X	リズムをもって、身体をまっすぐに保ち、脚を 90° 以上開く	運動面のずれ - 0.10 身体および脚の姿勢 - 0.10
開脚ジャンプ	Sp	明確なジャンプで脚を 180° 以上開く	開脚が 180° 未満 -0.10
シソヌ(ひねりを伴う・伴わない)	Si	ひねりの前に明確なジャンプを行い、脚を 90° 以上開く	開脚が 90° 未満 -0.10
倒立のバリエーション	↓	前方・後方のいずれでもよく、ひねりを伴っても伴わなくてもよい	身体の姿勢、手の位置直しなどに対する通常の減点
鹿ジャンプ(ひねりを伴う・伴わない)	Sg	明確に見てとれるジャンプ / 90° を超える開脚	ジャンプの不足 -0.10 開脚の不足 -0.10
ひねりを伴うステップおよびジャンプ	s e	コントロールされ、ひねりが完全に行われていること	ひねりの不足 -0.10
膝立ちの姿勢	Kn	十分な大きさ、表現、リズム(身体ののびし)	不安定さ -0.10
ジャンプ正面支持臥	↙	ジャンプ／リープの要求を満たす技は、これに含まれない	コントロールされていない着手 -0.10 / 0.30 / 0.50 不認定
移動なし	—	ひとつのアクロバットの運動から次の運動へ直接移る	2 秒を超える静止 -0.10



ゆっくりと後方伸身逆上がり系の力静止技

ゆっくりと後方伸身逆上がり系の力静止技は、全体を通して身体をまっすぐに保ち、腕をのびたまま、ゆっくりとコントロールされた回転を維持しなければならない。これから逸脱した場合は、E審判による実施減点の対象となり、不認定となる場合もある。身体や腕のまがりは、選手が逆懸垂の垂直な位置に達するまでは認められる。垂直な位置を過ぎた時点で身体が 45° を超えてまがった場合、その技は認定されない。なお、最後の静止姿勢についての認定は可能である。



以下の 5 つの技に適用される。

- ・ II.52 伸身逆上がり(脚前拳)十字懸垂・脚上拳十字懸垂(2 秒)(アザリアン)(タイ)
- ・ II.101 ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり水平支持(2 秒)(ヤン・ミンヨン)
- ・ II.107 ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持(2 秒)
- ・ II.108 ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり十字倒立(2 秒)(シーモノフ)
- ・ II.120 伸身逆上がり十字懸垂経過上向き中水平支持(2 秒)(タロック)

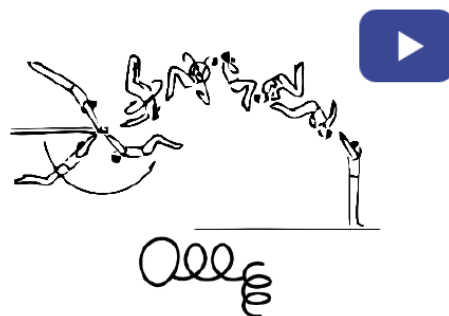
2. MAG New Elements Performed / 新しい技の認定

WG 男子技術委員会は、2025 年および 2026 年に以下の新しい技が実施されたことを確認し、成功したものについて各選手の名前を付与した。男子選手は、WG 公式競技会において、C 難度以上の技を落下することなく実施し難度認定された場合、その技に自身の名前が付与される可能性がある（採点規則 5.8 参照）。当該技は、演技中の最初の試技において成功しなければならない。

平行棒

Camila VERA (COL)

- ・ 棒端懸垂前振り後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり下り
- ・ F 難度 (IV.54)
- ・ 実施: 2026 年パンアメリカン選手権(ブラジル)で難度認定
- ・ 技名: ペラ



Carlos GARZA (MEX)

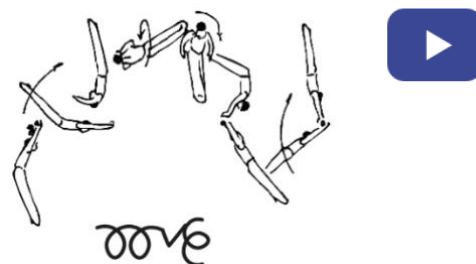
- ・ 棒端前方屈身2回宙返り下り
- ・ D 難度 (IV.16)
- ・ 実施: 2025 年ワールドチャレンジカップ(フランス)
- ・ 技名: ガルサ



鉄棒

Mikhail KOUDINOV (NZL)

- ・ 屈身ゲイロード1回ひねり
- ・ I 難度 (II.114)
- ・ 実施: 2026 年オセアニア選手権(オーストラリア)
- ・ 技名: コーディノフ2



イラストの作成に多大なご貢献をいただいた遠藤幸一氏(日本)に、心より感謝申し上げます。

男子技術委員会 委員長

Andrew TOMBS

President, Men's Artistic
Technical Committee

男子技術委員会 書記

Butch ZUNICH

Secretary, Men's Artistic
Technical Committee